

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
総括研究報告書

新たな歯科医師臨床研修制度における評価方法の基盤構築

研究代表者 田口 則宏 鹿児島大学・教授

研究要旨

現状の歯科医師臨床研修における評価方法に関する全国の実態調査結果、および令和2年度より開始された新たな医師臨床研修制度に関する情報をもとに、令和4年度から運用が開始される新たな歯科医師臨床研修制度の到達目標に対する評価方法の検討を行い、基盤構築を行った。

A. 研究目的

歯科医師臨床研修制度は、平成18年度の必修化以降、概ね5年毎に見直しが行われており、近年の社会環境の変化や歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂等を踏まえて抜本的な見直しが必要な時期となっていた。そこで、令和3年3月に歯科医師法第十六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令改正が行われ、令和4年度より新たな研修制度が運用開始されることとなった。これに伴い、各研修歯科医が到達目標に達したかどうかを適切に評価し、各研修施設における修了判定に資する情報を創り出すことが必要となっていたが、本研究開始時点（令和3年4月）では明確な方針が打ち出されていない。研究代表者らは令和2年度に厚生労働科学研究費補助金の支援を受け、現状の歯科医師臨床研修における評価方法に関する全国の実態調査を行った。その結果、研修修了判定を行う総括的評価では、大きく研修歯科医の態度や研修意欲、省察力などの「総合的な評価」を重視する施設と「経験症例に対する評価」を重視する施設に分けられ、特に前者の割合が多い傾向であった。また、多面評価については施設によって認識が大きく異なり、多面評価の概念そのものの理解が進んでいない部分も見受けられた。これらのことから、新たな制度では、新規に設定された到達目標に対して適切に評価しうる全国共通の評価基盤が求められるとともに、新たな制度の一つの柱となっている多面評価についても普及を図る必要があると考えられた。

そこで本研究では、新たな到達目標の各項目の詳細な評価方法を検討するとともに、これらの作業を全国の歯科医師臨床研修の関係者とともに実施し、幅広く利用できる評価方法の構築を目指す。さらに、本研究の成果を全国公開シンポジウムで公表し意見収集を行い、令和4年度の制度運用開始時に各施設で利用できる「歯科医師臨床研修評価ガイドライン」の作成を目指す。

B. 研究方法

1) 新たな到達目標における各項目の詳細な評価方法の検討

研修評価の実施段階は、臨床研修現場における日々の臨床研修レベル（研修歯科医、指導歯科医レベル）、診療科・協力型臨床研修施設レベル、研修管理委員会レベルに分類される。また、新たな到達目標は大きく3つの領域、すなわち「A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」、「B. 資質・能力」、「C. 基本的診療業務」に分類されている。そこで、どのレベルでどの内容を評価するのか、またそのタイミングをどのようにするのか、などについて整理することとした。本件は研究班において検討を行うとともに、全国の歯科医師臨床研修実務者の協力を得て、ワークショップ形式にて検討を行うこととした。

2) 全国公開シンポジウムの開催

上記のプロセスを経て作成した研修評価の全体像、および各領域の評価基準、評価の視点・観点などについて、令和3年12月にオンラインによる全国公開シンポジウムを開催し、情報公開と意見交換を行った。

3) 「歯科医師臨床研修評価ガイドライン」の策定と公開

シンポジウム後に、研修評価の最終的な取りまとめを行った。その後、本研究班活動の最終的なプロダクトとして、「歯科医師臨床研修評価ガイドライン」を作成し、全国へ公開することとした。

C. 研究結果

1) 新たな到達目標における各項目の詳細な評価方法の検討

研修評価の流れとしては、臨床研修現場における日々の臨床研修レベル（研修歯科医、指導歯科医レベル）において主にC領域の評価を中心に情報収集を行い、その結果を各診療科、および協力型臨床研修施設レベルにおいてB領域の評価に活かし、更に並行してA領域の評価を行うこととした。C領域の評価については「研修歯科医評価票Ⅰ」（資料2 p5-7）、B領域の評価については「研修歯科医評価票Ⅱ」（資料2 p11-16）、A領域の評価については「研修歯科医評価票Ⅲ」（資料2 p18）を用いることとした。さらに、これらの評価結果をもとに、研修歯科医ごとに一つの評価シートに結果を取りまとめ、研修管理委員会において研修修了判定に用いる基礎資料に資する形式の例示を行った（「歯科医師臨床研修の目標の到達度判定票」（資料2 p21））。

令和3年8月7日（土）に、全国歯科大学・歯学部附属病院における歯科医師臨床研修の実務者23名に参加を得て、オンラインによるワークショップを開催した。ディレクターは研究代表者、タスクフォースは本研究班の分担研究者が担当した。ワークショップの具体的な内容は、

セッションⅠ：新たな歯科医師臨床研修制度の概要説明

セッションⅡ：令和2年度実施のアンケート調査結果報告

セッションⅢ：研修評価の全体像とC領域の評価

セッションⅣ：B 領域の評価

セッションⅤ：A 領域の評価

とした。

ワークショップにおいて、A、B、C 各領域における評価の詳細（評価基準、評価の視点・観点）を検討し、その結果をふまえて研究班で最終的な案を策定した。

2) 全国公開シンポジウムの開催

令和3年12月18日に、本研究班主催の全国公開シンポジウムをオンラインで開催した。参加者は、全国の大学歯学部・歯学部附属病院や医学部歯科口腔外科や病院歯科、歯科診療所、各地方厚生局などから歯科医師臨床研修関係者の202名であった。シンポジウムでは、厚生労働省医政局歯科保健課の高田淳子課長補佐による「新たな歯科医師臨床研修制度の概要」と題した基調講演に始まり、令和2年度アンケート調査結果報告、研修評価の全体像と各領域の評価、研修評価の全体像とワークショップ報告、総合討論の形で進行された。参加者からの事後アンケートでは、よく理解できたこととして「研修制度」、「研修内容」、「多面評価」、「評価方法」などが挙げられた。一方であまり理解できなかったこととして「具体的な評価の運用方法」に関する意見が多かった。なお、本研究班が提案した研修評価全体の流れや評価基準についての具体的な意見は見られなかった。

3) 「歯科医師臨床研修評価ガイドライン」の策定と公開

シンポジウム後に、研修評価方法の最終的な取りまとめを行った。評価の手順に沿って用いる研修歯科医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを作成した。その上で、それらを用いて「何を評価するのか」、「評価のタイミング」、「誰が評価するのか」および実施の評価方法等について整理を行った。特に、「誰が評価するのか」においては、令和2年度の調査で明らかとなった多面評価の普及を促すために、明確に記載を行った。これらをもとに、本研究班活動の最終的なプロダクトとして「歯科医師臨床研修評価ガイドライン」として23ページにわたる冊子を作成し、令和4年3月に研究代表者の所属機関におけるホームページに公開した。

D. 考察

臨床研修の現場で収集された日々の研修実績に基づいて診療科・協力型臨床研修施設レベル、研修管理委員会レベルへと段階的に評価をすすめるという具体的な手順を示すことができた。この方法は、技能および態度の修得を重視する歯科医師臨床研修において適切な評価手順であると考えられる。さらに、それぞれの評価項目ごとの評価基準や評価の視点・観点を示すことができ、標準的な研修評価実施に資する基盤が構築されたと考えられる。一方で、今回提示した評価方法を実際に臨床研修の現場で運用し評価結果を可視化するためには、研修の進捗状況を指導歯科医と研修歯科医の双方が情報共有できる新しい評価システムの整備・開発が早急に望まれる。

E. 結論

本研究を通じて、全国の研修施設における評価方法に関する問題点を明確にし、新たな到達目標に対する評価方法に求められる内容や機能の検討を行い、全国の研修施設において活用しうる評価方法を明確にした。

F. 健康危険情報

今回の研究内容は、班会議における評価方法の策定、オンライン・ワークショップによる討論、オンライン・シンポジウムによる情報公開、意見収集などが中心であり、健康に害を及ぼす介入等は一切含まれていない。

G. 研究発表

1. 論文発表

該当無し

2. 学会発表

1) Oto T, Iwashita Y, Kamada Y, Matsumoto Y, Yoshida R, Taguchi T. The process of fostering dental students' professionalism in Japan. Association for Medical Education in Europe, 2021.

2) 田口則宏、長島 正、河野文昭、一戸達也、新田 浩、大澤銀子、秋葉奈美、岩下洋一朗. 歯科医師臨床研修制度における臨床能力評価法の現状調査. 第40回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 2021.

3) 鎌田ユミ子、吉田礼子、松本祐子、作田哲也、大戸敬之、岩下洋一朗、田口則宏. COVID-19 パンデミックの歯科医師臨床研修への影響 ～令和2年度鹿児島大学病院研修歯科医へのアンケート調査より～. 令和3年度南九州歯学会学術大会 南九州歯学会, 2021.

4) 長島 正、田口則宏、井上 哲、則武加奈子、長谷川篤司、和田尚久、野崎剛徳. オンライン指導歯科医講習会の開催方法に関する研究. 第40回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 2021.

5) 大戸敬之、松本祐子、鎌田ユミ子、岩下洋一朗、作田哲也、吉田礼子、田口則宏. 離島の歯科医師が歯学生に求めるもの. 第40回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 2021.

6) 岩下洋一朗、田口則宏、田松裕一、西村正宏. アウトカム基盤型教育に基づくコンピテンシー評価システムの開発—eポートフォリオシステムの操作性の改良. 第40回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 2021.

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当無し